

きりん V.G 槻 輪 だ よ り

会 報 第 29 号
発行日 平成19年2月28日
発行・編集 V・G 槻 輪
代表者 大岡成一
http://web3.ibj.co.jp/~kirin

わがまち紹介

西国街道：郡山宿本陣（椿の本陣）

郡山宿本陣（椿の本陣）

茨木市宿川原町3の10
昔の街道には大名とか、地位の高い人の宿泊する本陣が設けられていた。西国街道にも芥川、郡山など5ヶ所に本陣があつたが、現在その面影が残っているのがこの「郡山宿本陣」だけ。

この「郡山宿本陣」ができたのは寛永12年(1635)であり、明治はじめの廃藩まで約二四〇年余続いていたとされている。

昭和12年に大阪府史蹟、昭和23年に国の史蹟にそれぞれ指定され、昭和33年に茨木市が管理団体に指定されてから、修理工事等を行っており、交通史の遺跡として貴重な文化財の保護を行っている。

平成12年、周辺のまちなみ整備の一環として、道路舗装改良工事を行い、石畳調の仕上げを行っている。

郡山本陣では、正門を開けて我々を迎えて頂きました。門を入った左手の椿の大樹も花満開で椿の本陣と

呼ばれるのがわかった。

当主の梶様には長時間、丁寧に説明をして頂き、有難う御座いました。

京都から伏見を経て西宮に出て山陽道に入る。これが西国街道で、この間の宿駅は東より山崎、芥川、郡山、瀬川、昆陽(こや)の五カ所あり、なかでも郡山は中間に位置し、参勤交代の大名らが泊つたのが郡山本陣です。

現当主は第17代とのこと。享保3年、火災のため類焼したので、現在のものは同6年再建された。建坪88坪の広大なものです。



椿の本陣

明治3年に本陣職はやめられたが、元禄年間以後の古記録や宿札等が多く残され

ています。有名な藩主が泊られた宿札も多くあります。

本宿坊で使用されていた貴重な資料を読んで説明を受けました。

当時の宿帳の記載から生活の実情を説明して頂きました。

旅宿は本陣、脇本陣、旅籠(はたご)に大別された。中でも本陣は門、玄関、番所、檜の間、御継の間、上段の間等を設け、土地の名門や豪家がこれにあつた。中国、四国、九州の大名は、しばしばここに泊っている。

大名が泊るときは、宿泊の何カ月か前に設営の役人が来て、本陣と打ち合せをし、宿泊費用の交渉内容などを台帳に載っている」と説明を受けた。

本陣には治安権など大きな権限も与えられていたとの事。

宿泊する大名は、いわゆる大名行列(数百人のこともある)でやってくる。人数はそれぞれの勢力によって違ったが、幕府が規定した数より大人数だったようです。

特に人足には、立て看板、まん幕、寝具、食膳、鍋釜

風呂桶などまで持ち歩いたためか。

本陣には大名と豪族、用人、料理人等が泊まり、その他の武士や人足は、近くに分宿したので、宿舎は五十数軒にも及ぶことがあった。

茨木別院

阪急電車「茨木市」駅前にそびえる茨木別院は、慶長8年(1603)に教如上人が46歳の時に開創され、400年近い歴史をもつ。



慶長7年(1602)、徳川家康に京都東六条の地の寄進を受けた教如上人は現在の難波別院の地にあった東本願寺を京都に移し、東本願寺を建立する。その翌年の慶長8年に茨木別院を建立している。当時、茨木は西国街道の宿場町であり、教如上人が大阪に下向の際、常にこの地に宿泊されたといわれ、茨木城主の片桐且元が上人に城内の地を寄進し建立されたと伝えられる。

現在の本堂は安永6年(1785)に建立されたもので、大阪教区内の別院で唯一往時を今に伝える御堂が残っている。かつては、茨木御堂、茨木御坊、茨木掛所といい、現住でも「御坊さん」と呼ばれ地域のひとに親しまれ、北摂地域における教化の拠点となつている。

法宝物として、教如上人が茨木別院建立を依頼された御書である「教如上人御書」「教如上人御絵像」「教如上人御七歳御筆」「無心」「蓮如上人御自筆御文」「蓮如上人焼残御名号」など多くが残され、本堂には開基の教如上人の木像も安置されている。

境内に幼稚園があり、朝夕には保護者の送迎でいつも賑わっています。

茨木別院の山門から境内に入った右側にそびえたつ樹齢400年の黒松は、別院建立時に植樹されたといわれ、1688年(天明9)に第二十一代影如(句仏)上人が「弘誓の松」と命名されたもので、茨木市の保存樹に指定されている。」

3月度行事予定

“高槻市の鎮守の森：上宮天満宮”

月 日：平成19年3月15日(木)

集合場所：JR 高槻駅 改札出口 13:00集合

順 路：JR 高槻駅→上宮天満宮

上宮天満宮では、代表の森嘉和さんに説明して頂く予定です。

4月度行事予定

“銅鐸つくりのまち・さくら通り散策：南茨木”

月 日：平成19年4月5日(木)

集合場所：阪急南茨木駅 改札出口 10:00集合

順 路：阪急南茨木駅→茨木市立文化財資料館→

銅鐸鋳造型出土地→桜通り〜川端通り(元茨木川緑地)